

札幌学院大学

コラボレーションセンター年報

Collaboration

Center

年報について

中身

イシューの話し合い
学生スタッフの意見
コラボレーションセンター主催のプロジェクト
学生発案プロジェクト
60分CM
English Lounge & Lunch Time Talk
講義和(英語)



第三号

2017-2018

今回の巻頭言は対談形式にしようと考え、コラボレーションセンターのセンター長である横山登志子先生と、副センター長の土居直史先生にご協力していただきました。学生スタッフ(以下、学生)が聞き手となり、対談を行いました。

心が浮き立つ場所

学生：コラボレーションセンターは開設して3年が経ちましたが、開設前と後で変化は感じられますか？

土居先生：廊下が賑やかになったなと思いますね。イングリッシュラウンジであったり、ランチタイムトークであったり、昼休みは廊下に活気を感じるようになりましたね。

横山先生：前は校舎の中のどこに行っても平坦だったんですけど、コラボレーションセンターの辺りに行くところがあるし、活動も感じますね。だから温度が高くなるというか、学生も教職員も心が浮き立つような活動とか発信があるから「すくすくいいな」と思っています。

学生：学生から「コラボレーションセンターのここが使いやすくなった」と耳にすることはありますか？

土居先生：休憩スペースとして使っている話は聞きますね。あと、イベント情報はよく来るけど、ほとんど見えていないって学生に言われて、どうにかしなきゃなって思いましたね。コラボレーションセンターに全く興味のない人もまだいるなって思います。

横山先生：学生スタッフの「よね」とか、フリーで休めることいいよね」って話は聞くけど、具体的な意見や要望が出てくる感じではないかな。

土居先生：学生スタッフが何をやってくれるのが、まだ広まっていないように思いますね。だから、具体的な意見や要望には至っていないと思います。

学生：施設のことだけが知られている感じですかね。

横山先生：そうですね、施設のことでは知っているけど中身は全然知らない人も多くなって気がします。あって、いい印象はみんな持っていると思いますよ。



学生スタッフについて
《P4から》



謎解きプロジェクト
《P7から》



CONTENTS

- P3 施設紹介
- P4 学生スタッフについて
- P6 コラボレーションセンター主催プロジェクト
- P12 学生発案プロジェクト
- P16 アクティブラーニング・部活動サークル紹介Time
- P17 English Lounge・Lunch Time Talk
- P18 広報活動・編集後記

巻頭言 特集企画



副センター長
土居直史先生
(経済学部経済学科 講師)



センター長
横山登志子先生
(人文学部人間科学科 教授)



センター長と副センター長との対談

聞き手：コラボレーションセンター学生スタッフ (橋本論、斎藤颯人)

この大学の大きな力

学生：一年間センター長・副センター長としてコラボレーションセンターに携わってどのような思いを抱きましたか？

土居先生：この仕事をできてよかったなと思っています。経済学部の学生が頑張っている姿を見るのがあって、ほかの学部の学生が頑張っている姿を見たり聞いたりする機会はあんまりないんですよ。でも、学生スタッフや学生発案プロジェクトで頑張っている学生の姿を見ることができたのが良かったですね。

横山先生：私もすくすくよかったなと思っています。学生が企画・運営・評価することをこんなに楽しそうに行う姿がいいなと思いますね。だから「こういうことをもつと学内外に発信してやっていくことは、この大学の大きな力の一つだと思っています。」

学生：学生発案プロジェクトなど様々な活動を見て、気が付いたことなどありましたか？

土居先生：僕が専門の経済学は自分の利益を中心として考える学問なんですけど、学生スタッフの活動や学生発案プロジェクトは自分のためというよりも周りの人のためのものが多くて、経済学の考え方も大事だけど、そういう活動も大事だなと再認識しましたね。

横山先生：学生が好きなこと・関心のあることと、意味があること、そこにちよつと使命感が芽生えるような活動があったときにその学生はとて面白い顔をしているなって感じましたね。

今後の課題

学生：コラボレーションセンターはどんな可能性を持っていると思いますか？

土居先生：卒業生との交流があると、身近な社会人と話すことができたり、卒業生にも懐かしいなと思ってもらえたりするかな。そういうことができれば、いろんな人にプラスになるんじゃないかと思いますね。

横山先生：いろんな先生がゼミや研究報告の時に使ってくれるといいなと思いますね。普段ゼミの教室で行っていることも、あそこでもやろうかなってなればいんじゃないかと思っています。

学生：今年に入ってからゼミや授業で使われることも多くなったと感じます。

横山先生：じゃあ、もう少し使い方を先生に知ってもらえるようになるといいね。

学生：最後に、今後学生スタッフを含め学生に期待することは何ですか？

土居先生：学内外に向けた広報をしてほしいですね。僕が入って初めて知った活動や感心することが多かったので、ほかの教職員や学生にも伝えてほしいと思います。

横山先生：私も発信力ですね。発信力もコツと工夫があると思うので、その方法を勉強するのもいいと思います。

学生：お忙しい中、ありがとうございます。



動画作成
《P11》



冬プロジェクト
《P9から》



学生発案プロジェクト
《P12から》

学生スタッフ

について

皆さんは、コラボレーションセンターに勤める「学生スタッフ」についてご存知ですか？

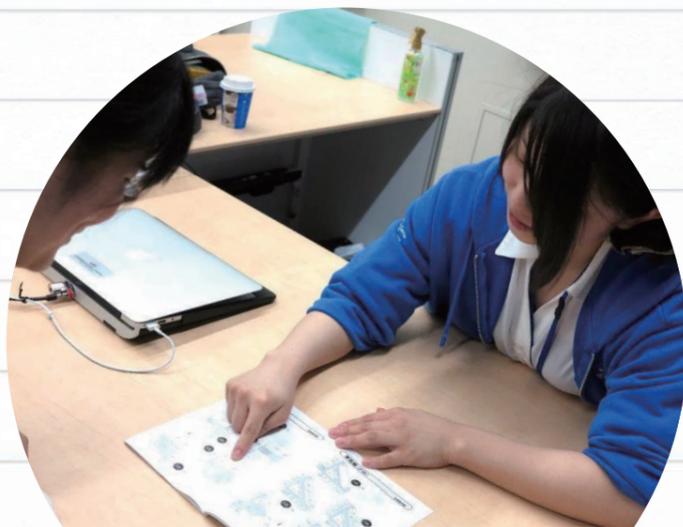
学生スタッフが創り上げた成果(たとえば、クリスマスの飾り付けやカフェの運営など)については、この1年で少し知っていただけだと思います。しかし、そこに至るまでの道のりはなかなか見えないものですよね。

そこで、皆さんに知ってほしい学生スタッフのお仕事をたくさん紹介します！

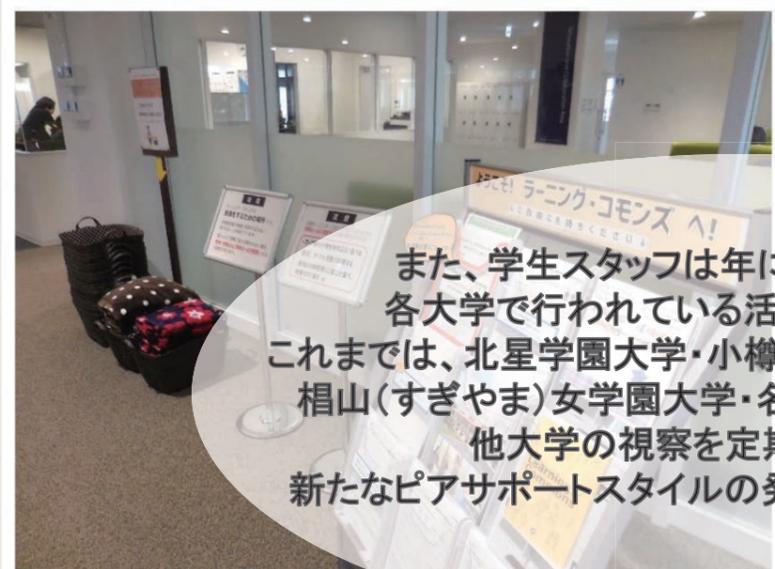


学生スタッフの主な仕事は、「ピアサポート」というものです。もとは「立場の同じ人がサポートを行う」という意味がありますが、当施設では「学生による学生のサポート」という意味でこの言葉を使います。

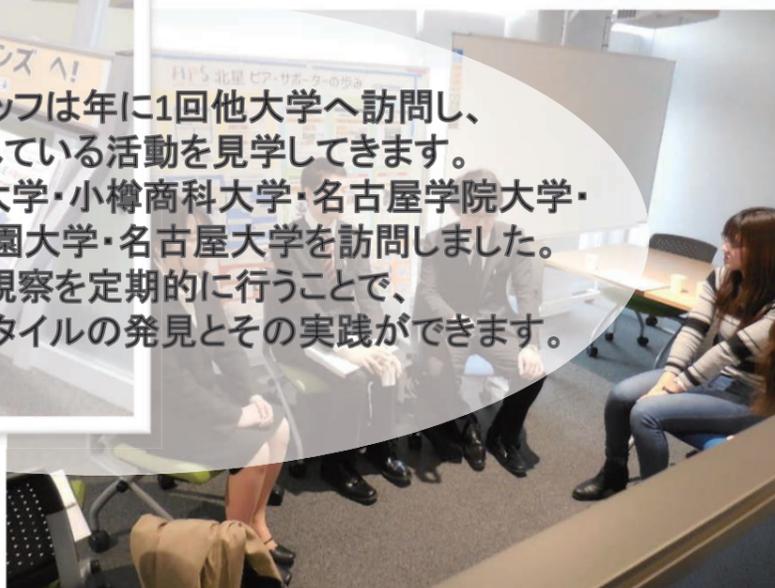
「PCの使い方がわからない」
「履修登録に不安を感じる」
「勉強の仕方がわからない」
こんなときは、コラボレーションセンターのSPACE2にお越しくださいね。待っています。



ピアサポートの様子



また、学生スタッフは年に1回他大学へ訪問し、各大学で行われている活動を見学してきます。これまでは、北星学園大学・小樽商科大学・名古屋学院大学・椙山(すぎやま)女学園大学・名古屋大学を訪問しました。他大学の視察を定期的に行うことで、新たなピアサポートスタイルの発見とその実践ができます。



～施設紹介～

ENTRANCE

学生と教職員が集い、知的好奇心を刺激する場として利用されています。昼休みには、「English Lounge」や「SGU Lunch Time Talk」、「部活動サークル紹介Time」等のイベントが行われてきました。

また、コラボレーションセンターのイベントはもちろんのこと、学生発案プロジェクトやゼミの発表の場としても活用されています。



SPACE1 -PC Room-



このPC Roomには、iMac15台とモノクロプリンタ、カラープリンタが設置されています。学生が使用できるカラープリンタが設置されているのは、このPC Roomのみです。隣の部屋(SPACE2)には、学生スタッフも勤務しており、PCTラブルや印刷方法で困った際に、すぐに対応できるのも大きな特徴です。

SPACE2 -Project Lounge-

講義やプロジェクト活動、課外活動のミーティング等に使用することができます。テーブルごとに予約ができるのも大きな特徴で、同じ時間帯に2つの講義が展開されることもあります。さらに、BIGPAD(大型モニタ)等の機器も揃っており、普段の座学とは違った講義を味わうことができます。

また、この部屋の奥にある相談カウンターでは、学生スタッフが勤務しています。



SPACE3 -Seminar Room-



学生のコミュニケーションや創造性を引き出すため、様々な設備があります。例えば、可動式のイス(テーブル付き)や可動式のホワイトボードが揃っているため、グループごとの話し合い等のアクティブラーニングには最適な空間です。もちろん、教室の前方にはスクリーン、後方の壁面にもホワイトボード兼スクリーンがあるため、座学にも使用できます。

その他にも、就職セミナーやイベントにも活用されています。

SPACE4 -SGU coffice-

カフェをイメージした空間で、落ち着く雰囲気が特徴です。テーブルやイスも個人用・グループ用と様々な種類のもが配置されており、用途に合わせて使用することができます。定期試験前には勉強する学生で賑わい、講義の合間や昼休みにはお菓子やお弁当を食べながら、会話を楽しむ学生の姿が印象的です。



コラボレーションセンター 主催プロジェクト

アール・ブリュットアート展 in SGU

コラボレーションセンター長である横山先生や有志の学生を中心に、学内で初となるアール・ブリュットアート展が10月13日にエントランスにて開催されました。
ともに福祉会さん、北光福祉会さん、ペンアートさんにご協力いただき、絵画や木工作品などを展示しました。多くの方が足を止めてご覧になっている姿が印象的でした。



アール・ブリュットとは？
「既存の美術や文化的背景を有しない人による芸術作品」という意味のフランス語。



厚田プロジェクト

厚田プロジェクトとは、石狩市厚田区で行われている地域貢献活動です。「地域とのコラボ」を中心に、コラボレーションセンターの事業の幅を広げることを目的としています。
本学の学生が、主体的にプロジェクトの運営を行っており、地域団体「厚田こだわり隊」と協力して、9月に開催される「厚田あきあじふるさと祭り」に参加しました。お祭りでは、地域の方々と一緒に料理を作ったり、かき氷やヨーヨー釣りなどを提供したりと、地域の方々と交流を深めることができました。

LINEスタンプ制作プロジェクト SGU ~学長の貴重なネタ帳~

↑制作したスタンプの一部 (スタンプは全40種類)

第3弾となる今作のテーマは、「学長の貴重なネタ帳」ということで、学長には様々なことに挑戦していただきました。
在学生や卒業生が持つ本学への帰属意識を高めることを目的としているため、学生が普段遣いできそうなユニークな仕草や行動をスタンプにしてみました。
2018年1月19日より、LINEストア「クリエイターズスタンプ」で販売しています。



学生スタッフは、ピアサポート以外にも様々な仕事をしています。
毎朝、出勤してすぐに施設の清掃・点検を行い、閉室前にはパソコンのモニタの清掃や忘れ物の確認をします。
もし、施設内で汚れている箇所や忘れ物を発見した際には、相談カウンターまでお知らせください。

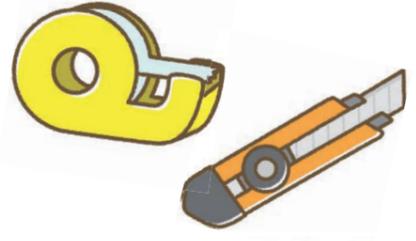
施設を快適に保ちます！！



また、イベント期間が近づくと、スタッフがイベント用の小道具を作成したり、準備したりします。特に、謎解きイベントを開催する際には、たくさんの小道具が必要となります。



細かいところまで妥協しません！！



学生スタッフだけで準備できないものは、コラボレーションセンター事務室の職員さんと相談し、買い出しに行きます。

青いパーカーが目印！！



学生スタッフの活動をもっと詳しく知りたい！という方はSPACE2 相談カウンターまでお気軽にお越しください！





10月21日に、Collaboration Centerで「謎解きゲーム Trick&Sweet」を開催しました。突如現れた魔女によってかぼちゃの姿へと変えられた参加者たちが、その呪いを解くためにさまざまな謎を解いていきました。

当日は家族連れも多く、皆さん和気あいあいとした雰囲気の中で謎解きを楽しんでいらっしゃいました。



魔法でかぼちゃの姿に！



ゲーム終了後に配布したアンケートでも、「満足」「かなり満足」という評価が全体の7割以上を占めました。「また参加したい」という声も多く、ご好評をいただきました。



6月24日に、大学祭出展企画「謎解きゲーム Escape from the Wonderland」を開催しました。

不思議の国に案内する白うさぎがミスをしてしまい、寝ている少女アリスが見る夢の世界へと転移してしまった参加者たち。彼らはアリスが目覚めて夢の世界が壊れる前に、元いた世界へと戻ることができるのか...



謎解きプロジェクト

...という設定で謎解きが行われました。コラボレーションセンター全体を使用した今回のゲームは、10代から60代まで幅広い年代の方が参加されました。配布したアンケートにも「とても満足」「次回も参加したい」との声を多くいただくなど、とても好評でした。

その他にも... 



入学前新生向け謎解きゲーム

3月31日に「コラボンファンタジーXVII」と題し、謎解きを開催しました。



新生ガイダンス謎解きゲーム

4月6日に経営学部、経済学部の新入生を対象に謎解きを開催しました。



「2017エベチュンクエスト ～江別に眠る幸せの秘宝と涙の行方～」

江別市主催のリアル謎解きゲームで出題される問題の作成に協力しました。



12月20日～22日の3日間限定でカフェもオープンしました。
 コーヒーを販売したほか、クッキーもプレゼントし、大好評でした。
 今回はSNSに装飾やカフェの様子を投稿していただき、拡散することで、
 大学やコラボレーションセンターの取り組みを知ってもらうことを目的に
 しました。結果的に、多くの学生や教職員の方々にご参加していただき、
 当初の目的を達成することができたと思います。ありがとうございました。



冬

コラボレーションセンター主催プロジェクト
 プロジェクト2017



12月4日～26日までの期間、エントランスにクリスマスの装飾を
 行いました。今回は女子向け企画として「インスタ映え」を目指し、
 色も青系にまとめて、豪華に仕上げました！

学生発案

プロジェクト

「学生発案プロジェクト」は、大学生活でやってみたいこと、日頃から考えているアイデアや熱い想いに、最高50万円を支援する札幌学院大学のプロジェクト支援事業です。
2017年度に、新規プロジェクトが2つ採択され、継続を含めて5つのプロジェクトが活動しています。各プロジェクトには、情報発信サイトを立ち上げ、日々の活動の状況を配信することを義務づけています。

プロジェクト採択までの流れ

学生発案プロジェクトの採択までの流れは、①やりたいプロジェクトを考える、②計画書を作成する、③応募する、④審査会でのプレゼンテーション、の4つの過程で成り立っており、厳密な審査を経て正式に採択された場合は、最大50万円の支援を本学から受けることができます。



プロジェクト採択後は??

学生により考えられたプロジェクトが審査会を経て、正式に採択されたあとは、実際に活動を始めていきます。プロジェクト活動していく中で、進捗状況の報告を2回行うことになっており、中間報告会では、半年間で達成した事柄と現在の状況の報告を行い、最終報告会では、1年間の活動結果報告を行います。

中間報告会

中間報告会は、プロジェクト活動がどこまで進んでいるのかを報告する場所になるよ!

最終報告会

最終報告会は、一年間の活動を振り返り、まとめた結果を報告する場所です。次年度へ向けた意気込みや準備・計画も決めておきましょう!

60秒CM募集

クラブ・サークルなどの紹介動画を募集します!

2018年 **3月1日(木)**までにSPACE2相談カウンターに提出してください

[動画の形式・長さ]
WMV・AVI・MPEG・MP4・MOVのいずれかで長さは30~60秒です。

[提出動画の公開]
Collaboration Centerエントランスのデジタルサイネージで上映されます
※入学式やオープンキャンパスなどの大学行事で上映することもあります

←画像は昨年、Collaboration Centerが作成したものです。

詳しくは、情報ポータルや学内各所で配布中の募集チラシをご覧ください。

<コラボレーションセンター主催プロジェクト> 諸活動紹介動画

学内の諸活動をPRすることを目的に、文化系・体育系のクラブやサークル、学内の活動に携わる学生や教職員の方々に60秒CMを作成していただきました。
作成されたCMは、エントランスのデジタルサイネージ(電子黒板)のほか、学生スタッフが入学式の一部で司会進行を務める「ウエルカムアワー」、オープンキャンパスなど、多くの場面で上映されます。



Check!

学生発案プロジェクトとは

大学生生活でやってみたいこと、日頃から考えているアイデアや、熱い想いに、最高50万円を支援するプロジェクト支援事業です。

学生発案プロジェクト(→P. 12)とは、どのような活動なのかを知っていただくため、各プロジェクトメンバーの代表の方に行ったインタビュー映像も交えながら紹介しています。また、学生発案プロジェクトの企画立案から審査会、報告会までを再現VTRで説明しています。



学生スタッフ活動紹介動画



コラボレーションセンターに勤務する学生スタッフが普段どのような活動を行っているのかを知っていただくため動画を作成しました。
朝8:30の開室から夜9:30の閉室まで、一日の仕事の流れを凝縮して動画になっています。

Check!

就業力が身につく! 自分の個性で仕事ができる!
イベントを企画できる!
人のつながりが増えた! 講義1コマ分からでもOK!
休みもしっかりとれる! パソコンや機器に強くなる!



学生発案プロジェクト紹介動画

携帯用アプリ開発プロジェクト



＜代表者＞
法律学科4年
曾根寛至さん

＜概要＞

本学の学生や教職員が、必要とする情報(情報ポータル、Moodle、本学ホームページなど)を統合的に閲覧できるシステムの設計・開発・運用を目指すプロジェクト。この機能を搭載した生体端末上で動作するアプリの開発を行う。

＜プロジェクト報告＞

サーバについての開発成果は、新サーバを構築し、サーバでWebスクレイピングプログラムを実行できるようにしたことである。情報の多くはコンピュータで処理できないHTML文書であるため、スマートフォンで情報を扱うにはHTML文書をインターネットで取得し、コンピュータで扱いやすいように変換する処理(Webスクレイピング)が必要であった。また、サーバの導入によって開発を容易にすることができた。

アプリについては、iOSとAndroidを同時に開発できる開発環境を導入した。実際に携帯アプリを試作し、Webスクレイピングサーバとの通信に成功したことで、本格的なアプリ開発のための基盤の構築に成功した。



今年度購入したPCの備品の一部 プロジェクトの作業風景



- Q1.プロジェクトを始めたきっかけは？
—重要な連絡の確認ミスが生じ、不便に感じていたため、アプリにまとめるとわかりやすいと思ったからです。
- Q2.一番必要なことは？
—今まで使ったことのないものに臆することなくやってみよう、という心が大切だと思います。
- Q3.みんなに向けて
—このアプリを通して大学生活をより良いものにしたいと考えているので期待してください！

国内協定校「松山大学」・高知県土佐市との交流促進プロジェクト



＜代表者＞
法律学科3年
手塚潤さん

＜概要＞

愛媛県松山市にある松山大学との交流と、江別市の友好都市である高知県土佐市との交流活性化を目指して活動を行う。お互いの大学や地域の魅力について、プレゼンテーションを行い、互いに国内留学について考えるきっかけを作る。

＜プロジェクト報告＞

松山大学とは連携強化・学生交流の活性化を目的に活動した。訪問時には、ゼミ形式の活動を通して方言が学べ、懇親会で交流を深めることができた。また、松山大学の学生が「来年度以降にゼミ旅行で行きたい」と言ってもらえることができ、訪問だけではない交流を行うことができた。

土佐市との交流では、「ドラゴン広場」で江別市のPRを行い、両市長・副市長を表敬訪問した際には、激励の言葉を頂くことができた。



松山大学にて本学の紹介を行っている様子



土佐市役所にて副市長様との一枚

- Q1.プロジェクトをやっていて良かったことは？
—北海道以外の方々と交流することができ、新たな視野を広げることができたことです。
- Q2.得たものは？
—四国の人の温かさを肌で感じることができました。
- Q3.来年度以降の展望は？
—松山大学との交流継続、江別市と土佐市の交流事業はレベルの高い市民を巻き込んだ活動が出来たら良いと考えています。

BTSプロジェクト

(BTS = Babes-Bolyai & Transylvania & Sapporo Gakuin)



＜代表者＞
英語英米文学科4年
中井俊さん

＜概要＞

ルーマニアのトランシルバニアブラショフ大学とバベシュ・ボヤイ大学の学生を本校へ招き、本学の学生の異文化への意識を高めることを目的としたプロジェクト。その一環として、学内授業参加や学内サークル、「日本食を作ろう」といった体験をしてもらい、視野を広げてもらうことを目指す。

＜プロジェクト報告＞

「社会の国際化」や「ルーマニアの日本語教育」など、6つの社会問題に焦点をあてて活動した。12月23日～1月5日にルーマニアの学生が来日し、浅草寺参拝、北星高校訪問、小樽市研修、学内の授業参加などを行い、異文化交流をはかることができた。

一方で、予期せぬ事態にどう対処するかという「リスク管理」が課題である。



外国人学生との交流会の様子



ルーマニア料理を振る舞う様子

- Q1.活動を行っていて良かったこと、楽しかったことは？
—大学から採択された予算を使い、事業を展開する機会を与えてくれたことに喜びを感じ、達成感があったことです。
- Q2.ルーマニアの学生と関わって感じた事は？
—日本的な感覚を持ち合わせていて、協調性があり、コミュニケーション能力が高いと感じました。
- Q3.プロジェクトメンバー内で大切にしていることは？
—違った文化や考え方を持った人と出会った時に多様性を理解して上手く協調しようと努力することが大切ですね。

音声認識を利用した情報保障プロジェクト



＜概要＞

本学では、パソコンテイクとノートテイクによる聴覚障がい学生の支援を行っている。テイクは長時間のタイピングや筆記による学生への負担が大きいなど、いくつか問題点がある。このような問題点と、より正確な情報保障を行うため、音声認識による代替を目指して活動している。

＜プロジェクト報告＞

今年度は、アクティブラーニングのような話者が複数いる講義における音声認識の活用を、2つの方法で検討した。①単一指向性マイクと無指向性マイクとの比較実験 ②音声認識を使用する際に必要なルールの調査
①の結果、単一指向性マイクの有効性は確認できなかった。集音する音声の音質が高かったため、些細な音でも音声認識が反応してしまったことが原因と推測される。また、②の結果、音声認識の認識精度を担保するためには、「他の人が話している時には割り込まない」、「ゆっくりと明瞭な話し方を心がける」などのルールが有効であることを確認した。



＜代表者＞
法律学科4年
上原亮太さん



実験の様子



報告会で説明する様子

- Q1.活動を行っていて良かったことは？
—色々な学生や先生方に音声認識を使った支援が少しずつ知れ渡っていることです。
- Q2.プロジェクトを行う上での理念・キーワードは？
—「何のためにこの活動を行っているのか」ということを大事にしていました。
- Q3.今後の展望は？
—講義形式の授業だけではなく、ゼミ形式の授業も含めて同じ質の支援をできるようにしたいです。

講義紹介

コラボレーションセンターには、「多様な学修の場」として多くの施設があります。コラボレーションセンターにある各種スペースのほか、「アクティブラーニング教室」としてA-215教室とB-201教室が設けられています。

アクティブラーニング教室では、ワークショップやディベートを多く取り入れた講義が開講されています。また、プロジェクト等も完備しているため、ビデオ教材を用いた講義にも最適です。

今年度、コラボレーションセンターで行われた講義、実はこーんなにあるんです！

<A-215教室>

裁判心理学
卒論指導
教養ゼミナールA(2)
プロジェクト実践Ⅲ(1)
精神保健福祉援助実習指導
応用ゼミナールⅢ(2)
臨床心理学演習Ⅱ
基礎ゼミナールⅡ(6)
精神保健福祉援助演習(基礎)

<B-201教室>

肢体不自由者の心理・生理・病理
発達障害教育論
地域インターンシップB
視覚障害教育総論
算数概説
博物館情報・メディア論
英語ⅣA(3)
行政学特講Ⅱ
法政特殊講義C

<SPACE2>

卒業研究
異文化グループワーク
キャリアスキル基礎B
社会福祉演習Ⅱ
こども発達学基礎ゼミナール
浅川ゼミナール
臨床心理学演習Ⅱ
基礎ゼミナール+留学生との交流会
専門ゼミナール

<SPACE3>

相談援助の基盤と専門職Ⅱ
英語ⅡA(10)
特殊教育(教・中高)
全学共通特別演習A(3)
現代学習論
キャリア数学A(2)
基礎ゼミナールB(2)
文化動態論
監査論

SPACE2の予約は、相談カウンターにて受け付けています。
毎週の講義や勉強会に、ぜひ活用ください！

部活動サークル紹介Time

合気道
アンプラグド
硬式野球部
ボクシング部
吹奏楽部
ラグビー部
鉄道研究会
劇団SON'SUN

学生自身が部活動やサークルの魅力や魅力を伝え、部活動への関心を向上させることを目的に発案されました。学生が中心となったイベントが新鮮だったことから、学生や教職員まで幅広く関心を持っていただけたと思います。新入生や新しいことに挑戦したい学生にとって、部活動やサークルを知る良いきっかけとなったのではないのでしょうか？

子ども食堂「ここなつ」プロジェクト



<代表者>
臨床心理学科3年
佐賀京介さん

<概要>

大塚銀座商店街や地域の方々や本学の学生が連携し、子どもの居場所づくりを目的とした活動を行う。毎週金曜日に集まり、主に夕食支援を行っている。その他にも、学習支援や季節ごとにスイカ割り、ハロウィン、クリスマスなどのイベントも行っている。また、「ここなつ」というプロジェクト名は「子ども、交流、仲良く、つながる」の頭文字をとったものである。

<プロジェクト報告>

子ども、大人、学生など多世代が集まれる地域の居場所作りを目指し、2016年4月から60回を超える活動を行ってきた。活動は毎週金曜日に大塚銀座商店街の「麺こいや」で行い、子どもたちにとっての日常となるような場づくりを大切にしている。さらに企業と連携して季節のイベントなどを企画し、非日常的な場づくりも大切にしている。

Q1.プロジェクトをやって良かったことは？

ーグループの導き方、チーム作り、業務的な部分でスキルアップできたことです。

Q2.活動を通して得たものは？

ー銀座商店街で食材を寄付してくれる人とつながりができ、助け合いの形になっているのが良いですね。

Q3.プロジェクトメンバーになるには？

ーこういう活動がしてみたい、子どもに対して何かしてあげたいという人に入って欲しいです。



食事の風景



学生と子どもたちの交流

学生発案

プロジェクト

2018年度の募集案内



コラボレーションセンターでは、学生発案プロジェクトを募集しています。学生のみならず、日頃から考えているアイデアや熱い想いを仲間と一緒に実現してみませんか？

2018年度分募集の詳細については、4月以降にコラボレーションセンターが運用するSNSや学内掲示ポスターにてご連絡しますので、興味や関心のある学生は、見逃さずチェックしてください。



広報活動

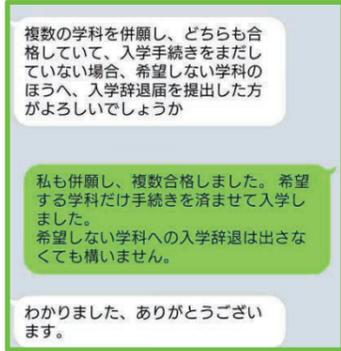
Facebook、Twitter、Instagram、LINE@を運営しています。施設の日常の様子はもちろんのこと、イベントの開催報告や予告など、リアルタイムで情報をお伝えしています。裏表紙のQRコードよりアクセスしてみてください！



Facebookの投稿



Instagramの投稿



LINE@での新入生サポートの様子

LINE@とFacebookでは、期間限定で新入生サポートも行っています。入学前の不安や疑問の解消、大学についての情報発信など、新入生が良いスタートを切れるよう全力でサポートします！



↑左から順に、月報7月号、月報10月号、年報創刊号、年報第二号

学内向け広報として、毎月初旬に月報を発行しています。また、年度末には1年の活動の様子をまとめた年報を発行しています。年報の作成では、構成からページのレイアウトまですべて学生スタッフで行います！ぜひお手に取ってご覧ください。

編集後記

「札幌学院大学コラボレーションセンター年報」は、今年度で第3号を迎えました。これまではコラボレーションセンターそのものを知ってもらうために、施設などの紹介がメインとなっていました。そのため施設などについては、そろそろ認知されてきたのではないかと感じています。したがって施設紹介のページを減らし、本号からは、学生スタッフの活動について多く取り上げ、学生スタッフの日常をより濃く紹介することにしました。

デザインや文章については「伝える」ということに重きを置いて作成しました。ですが、受け取り方はそれぞれ違い、より良いものを追求することの大変さを感じました。また、各々の個性をバラバラのものではなく、一つの年報としてまとめていく難しさも感じました。

この年報を手に取ったことを機に、コラボレーションセンターに少しでも興味を持っていただけると幸いです。

年報作成プロジェクトメンバー： 三浦安優音(1年) 斎藤 颯人(1年)
藤原 昇汰(3年) 橋本 諭(4年)

English Loungeは、平日の昼休みにエントランスにて、英語に親しむことを目的に行われている取り組みです。

英語の講義以外でも、より気軽に楽しく英語に触れたいという人のためにつくられた場所です。

英語担当教員・国際交流担当・学生有志を中心に運営しており、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、英語に触れる時間と空間が提供されています。

英語に興味がある方は気軽に参加してみてください！



平日の昼休みに開催中！！

English Lounge



SGU Lunch Time Talk

ランチタイムトーク

月に1回程度開催中！！



SGU Lunch Time Talkとは、教職員がそれぞれ伝えたい話題をお届けする企画です。ここで扱われるテーマは、教員の研究テーマはもちろんのこと、研究から派生したお話や、教職員が関心を持って取り組んでいること、学生にぜひ伝えたいことなど多様なテーマを取り上げています。

教員は、研究等について語ることで教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールします。学生はそこから刺激を受け、知的好奇心を動かします。教員のみならず、学生および職員が特定のテーマで語り、新しいつながりを作る場とすることが目的です。

また、大学生協からおにぎりを提供して頂いています。昼食をとりながらの参加もOKなので、興味の持てるトークテーマがあればぜひ参加してみてください！

今年度行われたSGU Lunch Time Talk	
話し手	トークテーマ
高橋ヘレン(経営学部経営学科 講師)	「Please I have been : Languages I have learned」
大宮秀淑(人文学部臨床心理学科 准教授)	「脳トレって本当に効果があるの？」
金盛直茂(経済学部経済学科 講師)	「貧しい国が豊かになるためには～資源のワナから考える～」
手代木理子(人文学部臨床心理学科 教授)	「身体とつながろう！ートラウマ治療法の日常への応用ー」
斉藤美香(人文学部臨床心理学科 准教授)	「先延ばし癖を変えてみませんか？」
山崎慎吾(経済学部経済学科 講師)	「財政赤字は誰のせい？」
松井光一(人文学部こども発達学科 教授)	「子どもたちにはA(挨拶)K(感謝)E(笑顔)が必要だ！」
檜山純(経営学部会計ファイナンス学科 准教授)	「？と思う心」
室橋春光(人文学部臨床心理学科 教授)	「速い思考と遅い思考？直感的で衝動的なシステムと理論的で急げ者なシステム・・・まな板モデルで考える」
河田真清(経営学部経営学科 教授)	「企業を支える企業の新しい取り組みの応援制度」



Collaboration Center

Sapporo Gakuin University



<https://www.facebook.com/SGUCollaborationCenter/>



https://twitter.com/SGU_Collabo



<https://page.line.me/spv4053o>



https://www.instagram.com/sgu_collaborationcenter/